

第2回 環境懇談会

～ 開催報告 ～

2008年3月26日(水)



1. 開催概要



開催日時

2008年3月13日(木) 17:00 ~ 18:00

場所

ホテルセンチュリー静岡 「サルビアルーム」
静岡市駿河区南町18-1

2. 委員構成

座長	奥野 信宏	中京大学 総合政策学部長
委員	青山 佳世	フリーアナウンサー
	亀山 章	東京農工大学 農学部 地域生態システム学科 教授
	川勝 平太	静岡文化芸術大学 学長
	城戸 真亜子	洋画家
	柴田 昌治	日本ガイシ株式会社 代表取締役会長(欠席)
	嶋津 八生	日本放送協会 解説委員
	服部 力	建築家 (株)服部都市建築設計事務所 主宰)

(敬称略、五十音順)

3. 環境懇談会の趣旨



環境に関する事項をはじめ、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割・意義などについて、社外有識者に委員を委嘱し、弊社経営陣との間で、大局的な観点から意見交換をさせていただくことを目的としています。

4 . 主なご意見

現地視察の感想

- 環境もさることながら、多面的な面で配慮が行き届いている。
- 新東名の工事着手前の自然環境対策の調査・検討に携わったが、実際に対策が実施されていることを確認できた。
- 自生種による緑化は、外注ではなく滋賀県の緑化技術センターを活用して行っており、緑の技術を持っていると感じた。
- 橋梁の形式検討において、力学的美しさを追求していくことは、実はコスト面、材料面、工期、いろんな面でコストを下げて、材料も少なくしているということ、また、それが結果的に視覚的にも美しくなっているという事例があった。
- 環境だけでなく、景観にも配慮されていると感じた。
- 美しい橋梁などの構造物をつくっているが、これらを多くの方々にお伝えできるような場所なり機会なりがあればよい。
- 非常に環境に配慮しながら色々な施策をやっている。こうしたことを多くの方々に知っていただくことが非常に大事。
- 以前は、最新技術や新工法を採用してコストも少し高くなる、という説明が多かった。今回の説明は必ずコスト縮減や環境配慮の視点が含まれており、技術は進歩し、また人々の意識も進歩していると感じた。
- 工事から出てくる土の処分で非常に広いスペースのSAができたということで、ぜひ地域の人たちにとって開かれたSAとしてほしい。
- 環境配慮はもとより多岐に研究を進めており感心した。ただ、今建築界では長寿化が非常に問題になっており、単純に言えば寿命が倍になれば、廃棄物は半分になる。高速道路でも諸施設の長寿化に改善の余地があるのではないか。

4. 主なご意見

CSRについてのご意見

- 新東名はこれからの日本の道路づくりの一番のリーディングプロジェクトである。新東名の自然環境への対応について報告書にしっかり書いていただきたい。
- 高速道路ののり面の樹林化において、開発前に樹木があった場合は、樹林化との差し引きを行わないとミスリーディングとなるため注意が必要。
- 中日本がその周辺地域の森林へ間伐や枝打ちといった投資を行うと森林が活性化しかつ社会貢献になるのではないか。
- 例えば、バイオディーゼル燃料の試行について、その理念やコスト・施設などについて丁寧な説明を行うべき。
- CSR報告書のビジュアル版を検討し、学校などで紹介してはどうか。
- 報告書は総花式にならぬよう、重点を置く論点を3つか4つに絞って、まとめた方がよいのではないか。
- 法令順守はコンプライアンスの中で最低限の要件で、言葉の本来の意味でいくと相手(ステークホルダー)の期待や要望にこたえることが重要。昨今の企業評価のプリズム()などを参考にすべき。
- 新東名の役割をきちんと打ち出していくことが必要。
- 震災等のリダンダンシーも大切だが、国土軸において日本の大動脈の物流が止まることがないよう安全対策を含めた日々のリダンダンシーも考えるべき。

「プリズム(PRISM)」

日本経済新聞社と日経リサーチが共同開発した多角的企業評価システム。専門家が優れた会社とみなす企業群について「柔軟性・社会性」「収益・成長力」「開発・研究」「若さ」の4項目を使った評価モデルを作り、調査データや財務諸表(予想数値含む)から得た得点を順位付け。調査対象は上場企業中心に2251社で、1033社が有効回答。

出典：http://www.nikkei.co.jp/report/prism/20080313a1b3d005_13.html

5 . 開催状況



【参考】CSRの事例(交通安全の支援)



安全啓発の取り組みとして『気をつけガイド』を発行

高速走行に気をつけガイド(通常版)

・お客様が走行される際に特に注意が必要な『**要注意箇所**』と**注意するポイント**、**安全走行のアドバイス**、**安全対策の概要**を紹介しています。



冬道走行に気をつけガイド(冬季版)

・お客様が冬道を走行される際に特に注意が必要な『**要注意箇所**』と**注意するポイント**、**安全走行のアドバイス**、**除雪作業**などの概要を紹介しています。



作成初年度(2007年度)は、休憩施設での配布や関係機関への送付を含め、
通常版:約13万部、冬季版:約10万部を配布。

ホームページにも掲載し、約3,000件/月程度のアクセス数があります。

今後、更なる周知・浸透を行い、交通事故削減を目指していきます。



【参考】CSRの事例(交通安全の支援)

NEXCO

社員派遣による交通安全セミナーの実施 (名古屋支社)

【目的】

- ・高速道路上での交通事故の発生状況や交通安全のポイント等の情報を提供し、**お客様の高速道路上の交通安全の学習を**応援します。
- ・お客様個人と会社との結びつきの強化を図り、**お客様とのコミュニケーションツール・手段**とします。

活動実績(2/6時点)

受講者 約2,000名(31団体)

官庁、自治体、自動車学校、
自動車関係会社、運輸関係会社、
建設関係会社 等



交通安全のお話を聞いてみませんか?
高速道路を知って、より安全に走行しませんか?

出張講座 NEXCO中日本
“高速道路交通安全”セミナー

NEXCO中日本がみなさんのところにお伺いお話しします。

NEXCO中日本名古屋支社では、ご要望に応じ企業、各団体及び学校が開催される学習会・講演会に、社員を派遣し、高速道路上での交通事故の発生状況や交通安全のポイント等の情報を提供して、みなさんの学習を応援します。

Point 1 講師料 無料! ※会場の準備、片付け、開催周知等は依頼者側をお願いします。

Point 2 いつでも、どこでもお伺いします。 ※休日でも夜間でもお伺いします。

[セミナー紹介]

例1 逆走に注意!
逆走車は、追越車線を行ってきます。

走行車線	追越車線
6%	94%

例2 後部座席シートベルト
車外放事故死者の半分は後部座席の非着用者!

着用	非着用
30	45

この他にも、知られていない事実をお伝えします!



安全はNEXCO中日本の願い

中日本高速道路株式会社名古屋支社 総務企画部 企画調整チーム
〒460-0003 名古屋市中区錦2-18-19
TEL:052-222-1181(代表) FAX:052-232-3748

【参考】CSRの事例(地域社会との連携)

ハイウェイ緑の里プロジェクト ~地域との協働による高速道路の緑化を目指して~

- 参加対象者 自治会、学校、会社などの団体の方々
- 活動箇所 NEXCO中日本が提供する場所(募集箇所23箇所)
- 活動内容 参加者が主体となり花壇の整備、樹木の植栽などの緑化・美化活動を実施
- 当社の協力 高速道路のり面を地域に開放するとともに、必要に応じて、草花や堆肥の提供など、自治会、学校などは高速道路関連社会貢献協議会からの助成を実施

実施例

2007年5月26日(土)株式会社デンソーの社員の皆さまを中心とした市民ボランティアやスタッフの方々が参加し、NEXCO中日本の社員も協力して植樹活動を実施。

実施箇所	東名高速道路の岡崎市内
植樹数量	約460本(低木・苗木)
植樹面積	約1千m ²
参加人員	ボランティア約40名



上記の他、2007年度内に4箇所で実施予定。

【参考】CSRの事例(地域社会への貢献)

一般国道23号の橋梁補修工事に伴う料金割引の実施

一般国道23号の木曾川・揖斐長良大橋の補強対策工事(国土交通省)に伴う車線規制により、名古屋都市圏の交通の大動脈である一般国道23号及び国道1号に渋滞が発生し、更に渋滞が悪化する可能性が大きいと判断し、その迂回路として伊勢湾岸自動車道を利用させていただくために、2007年7月25日から補強対策工事の規制解除した10月12日の80日間、『みえ川越IC～飛鳥IC間』の通行料金を半額としました。

【渋滞緩和効果】

断面交通量の変化

- ・割引実施後は、伊勢湾岸道の交通量(湾岸桑名～湾岸長島)が、約7千台/日増加(+16%)。
- ・一般国道23号の交通量は、約11千台/日減少(-23%)。

一般国道への渋滞緩和効果

- ・料金割引後、一般国道の最大渋滞長(平均)は国道23号・1号ともに減少。
- ・国道23号では、最大渋滞長(平均)が、約6割減少(2.5km 1.1km 1.4km)。
- ・規制前及び規制解除後、国道23号では渋滞は発生していません。



<概要図>



災害等による無料通行措置の実施

2007年7月15日、上野原市と八王子市を結ぶ一般国道20号が通行止めとなり、両市間の道路が中央道を除いて通行不能となったことから、中央道において一時的無料通行措置を講じました。

(無料措置の実施)

実施区間：中央自動車道 相模湖IC～八王子IC・TB

中央自動車道 相模湖IC～圏央道 八王子西IC

実施日時：2007年7月15日(日)11:40～13:10(1時間30分)

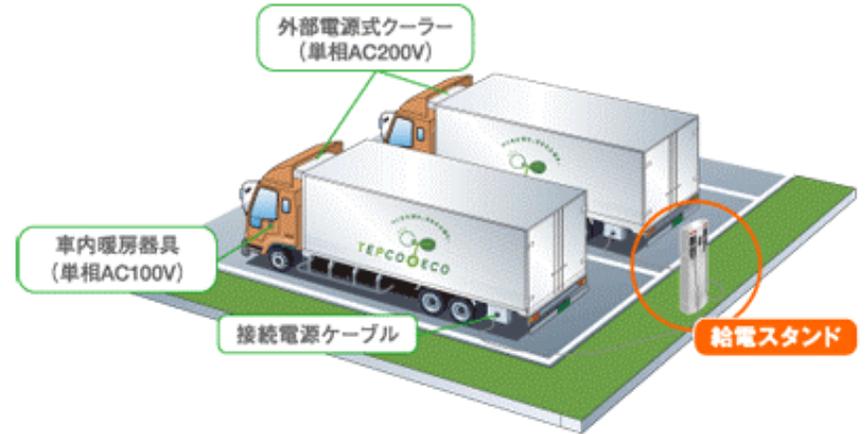
無料措置台数：186台

【参考】CSRの事例（環境への取り組み）

高速道路の休憩施設における アイドリングストップ用給電システム導入の検討

背景

高速道路の休憩施設において、仮眠や荷物待ちなどのために駐車している長距離トラックなどが室内の空調などを稼働させるためにアイドリングを行っています。NO₂やSPMなどの排出による局地的な大気環境悪化やCO₂排出による地球温暖化への影響が問題になっています。



開発者：東京電力、日野自動車

システムの概要

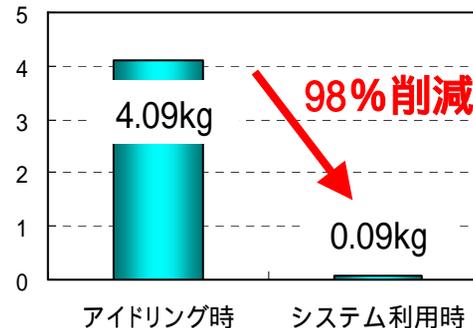
駐車中のトラック等の空調のため、駐車場に設置された給電スタンドから車両に電力を供給するシステムで、CO₂や燃料費を削減します。

検討状況

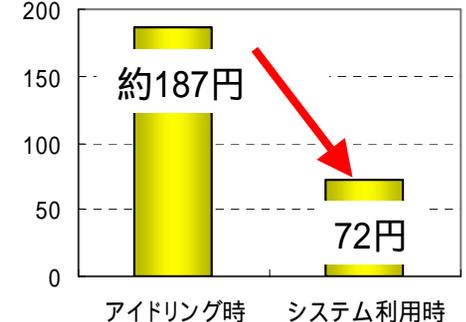
現在、設置・運用のスキーム、試行導入する場所（東名・名神など）について検討中です。

大型トラック1台のアイドリング1時間あたりの試算例

< CO₂削減効果 >



< コストダウン効果 >



【参考】CSRの事例(環境への取り組み)

高速道路の維持作業車両におけるバイオディーゼル燃料の試行導入

導入概要

東名高速道路の富士保全・サービスセンターでは、本線上で情報提供を行う標識車(2台)について、通常燃料の軽油に代えて**バイオディーゼル燃料の使用**を行っています。

バイオディーゼル燃料とは、ナタネ油などの植物油からつくる燃料で、植物は二酸化炭素を取り込んで成長するため、これを燃やしても大気中には二酸化炭素が戻るだけのため、CO₂排出量を増加させません。しかも、本バイオディーゼル燃料は、**サービスエリアの使用済み食用油を利用**していますので、資源循環型社会の形成にも貢献します。



検証状況

環境性能及び車両性能に大きな問題が見受けられないことから、バイオディーゼル燃料使用車の導入拡大を目指し、関係技術の開発動向及び燃料供給体制(精製能力、備蓄方法)を調査・検討中です。

**2007年度のCSRの取組みをCSR報告書として発行します。
～第2回環境懇談会を開催しました～**

NEXCO中日本(中日本高速道路株式会社、本社・名古屋市中区、代表取締役会長CEO・^{も の ひろのり}矢野弘典)では、環境に関する事項をはじめ、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割・意義などについて、社外有識者に委員を委嘱し、弊社経営陣との間で、大局的な観点から意見交換をさせていただくことを目的として、「環境懇談会」を設置しています。

2008年3月13日に実施した第2回環境懇談会では、新東名の浜松市域から静岡市域の現地視察を行い、その後、会議を開催しました。

会議では、2008年度から環境報告書に替えてCSR報告書を発行することに伴い、現行の「環境懇談会」を「CSR懇談会」とすることにご承認いただくとともに、当社のCSRの取組み等についてご意見をいただきました。

委員の皆様からいただいたご意見については、別添のとおりです。

なお、CSR報告書の発行は、2008年6月末を予定しています。

【参考】環境懇談会 委員名簿

座長	おくの のぶひろ 奥野 信 宏	中京大学 総合政策学部長
委員	あおやま かよ 青山 佳世	フリーアナウンサー
	かめやま あきら 亀山 章	東京農工大学 農学部地域生態システム学科 教授
	かわかつ へいた 川勝 平太	静岡文化芸術大学 学長
	きど まあこ 城戸 真亜子	洋画家
	しばた まさはる 柴田 昌 治	日本ガイシ株式会社 代表取締役会長
	しまづ はちなり 嶋津 八 生	NHK解説委員
	はっとり つとむ 服部 力	建築家(株式会社服部都市建築設計事務所 主宰)

(敬称略、五十音順)